★ 變星課 今月の報告者，下記の通り．但し，津留，山田兩氏は4～5月分．1939年後半期の變星整理完了，次號より發表の筈．（岡林）

	1940年5月					
	第一部		第二部		計	
氏名	星數	目測數	星數	目測數	星數	目測數
岡林滋樹	8	28	8	42	16	70
沓掛七二	1	1	4	8	5	9
津留繁雄	5	17			5	17
山田達雄	4	6			4	6

本誌前號（第230號）の表紙口繪について

本誌の六月號（第230號）の表紙第1頁に"蟹星霧"のカットを出した．之れは神戸の本會員林仲太郎氏の特別な御厚意によるもので，同氏所有の O. M. Mitchell 著書 "The Orbs of Heaven, or, The Planetary and Stellar Worlds. A popular exposition of the great discoveries and theories of modern astronomy" の第4版（英京 Ingram-Cook 社出版）1853年（日本の嘉永6年）發行の書物の中に出てゐるものである．

"蟹星霧"の此のスケチを畫いた第三代ロス卿 (William Parsons) は，英國アイルランドの貴族で，政治界に雄飛する一方，天文學に趣味を有ち，ヰリヤム・ハーシェルの後を受けて，自ら反射鏡の製作法を苦心研究し，遂に1845年，三ケ年を費した口徑6呎の大反射鏡が出來上つたので，之れを用ゐて，1848年から晩年（1867年死）に至るまで，夥しい星霧の精密な觀察をやり遂げた．"何しろ，天文學に寫眞術の應用せられる以前のことであるから，甚だ粗雜なもので，後年，寫眞術がデビユしてからは，ロス卿の眼視觀察スケチの如きは價値が無い"と思つてゐるモダン・ボイなどが世には多いけれど，實は誤りで，現に此のスケチと，本誌第226號の表紙第2頁の口繪寫眞とを注意深く見て頂くと，判明する通り．今日では未だ未だ寫眞術では到底及ばないものが眼視觀測には澤山ある．星霧の構造は，現に此の通り，其の他，遊星面の模樣の觀察でも，彗星の光輝の分布にしても，黃道光の觀測などにしても，今日，寫眞は全く落第で，熟練な眼視觀察の獨壇場である．

本誌第230號のカットが，誤つて上下轉倒してゐるのは，全く校正の誤りである．御わびします．第226號の寫眞と比べて貰へば，萬事は明瞭です．

（編輯）